

大学生を対象としたソーシャルメディアの利用形態とソーシャルキャピタルに対する調査

木谷明日香[†] 上林憲行[†]

東京工科大学メディア学部[†]

1. はじめに

近年世の中には様々なソーシャルメディアが存在し、複数のソーシャルメディアに登録している人が大多数である^[1]。各々ソーシャルメディアでの交友関係は親密度、多様性（同質性・異質性）、クローズ型・オープン型などの特性の違いがある。本研究は各ソーシャルメディアの特性を明らかにしそこからわかる利用形態の違いを解明することを目的とした。

2. 調査目的と方法

2.1 調査目的

客観的に友人関係を可視化できる社会ネットワーク分析を用いた。実効サイズは多様性、クローズ型・オープン型かは密度で測る。可視化や計算をする際に *cytscape* を使用した。人間の持っている他人との距離の意識、親密度をはかるため対人距離の要素も入れた。また、社会ネットワーク分析の要素である実効サイズと密度、対人距離の相関関係を調べ対人距離で置き換えることは可能かも調べた。

2.2 調査方法

今回はソーシャルメディアの中から主な3つ Facebook, LINE, Twitter を調査した。対象は卒業研究室の4年生（10人）である。6ヶ月以内に連絡を取った人（ACL: Active Communication List）を調べることで実際にやり取りのある交友関係を読み取る。登録している人全て（SCL: Static Communication List）を調べることで各ソーシャルメディアの全体像を読み取る。これらを目的とした社会ネットワーク分析の調査を2つ実施した。Excel を用いて ACL と SCL の交友関係と友人の属性、対人距離を記入してもらった。実効サイズ、密度、対人距離の観点から交友関係の違いを求め特徴を調べた。なお SCL を書くに当たって全てを上げてもらうことは不可能だったため無作為で50人抽出して行った。ACL の6ヶ月以内に連絡をとったとカウントされる基準は次のとおりである。

- Facebook: 個人間でいいね、メッセージ
- LINE: 個人間でのメッセージ
- Twitter: リプライ、いいね、RT、ダイレクトメッセージ

“An investigation to clear different styles for each social media on university students”

Kitani Asuka[†], Noriyuki Kamibayashi[†]

School of Media Science, Tokyo University of Technology[†]

3. 調査結果

3.1 社会ネットワーク分析と対人距離の相関関係

今回対人距離の概念を使用していたので対人距離との相関を調べた。相関関係を調べるにあたり、対人距離を今まで使っていたものを親密度とし新たに異質度を入れた。

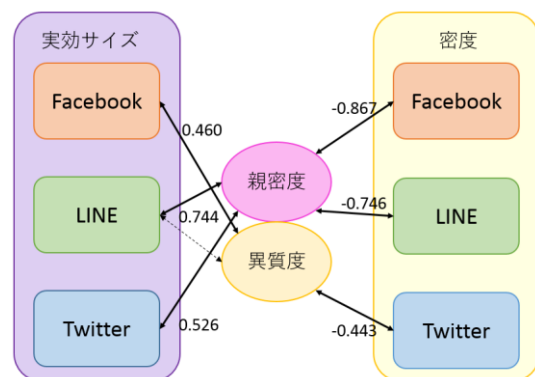


図1 実効サイズ、密度と対人距離の相関

ACL の実効サイズと親密度、異質度を、密度と親密度、異質度の相関をそれぞれ出した。その結果実効サイズは Facebook が異質度と相関が出て、LINE と Twitter が親密度と相関が出た。親密度や異質度が高ければ実効サイズも大きくなることがわかった。密度も同じように相関を出した。結果、Facebook と LINE が親密度と負の相関が出て、Twitter が異質度と負の相関が出た。親密度、異質度が高ければ密度は小さくなることがわかった。このことより実効サイズ、密度の大小を比べる際に親密度と異質度を調べれば比較できることがわかった。

3.2 各ソーシャルメディアの利用実態

1) ACL と SCL の対人距離の分布割合

太線の部分が全体の平均示している。（図2）

① 3つのソーシャルメディアの特徴

(a) Facebook

ACL と SCL では山が変わらないことがわかった。最近連絡を取っている人と全体の比率は変わらなかった。これは Facebook で連絡をとる人は仲の良さに関わらず満遍なく使っていることがわかる。交友関係をみると4年生は就職活動でも使っており対人距離が遠めになったと考えられる

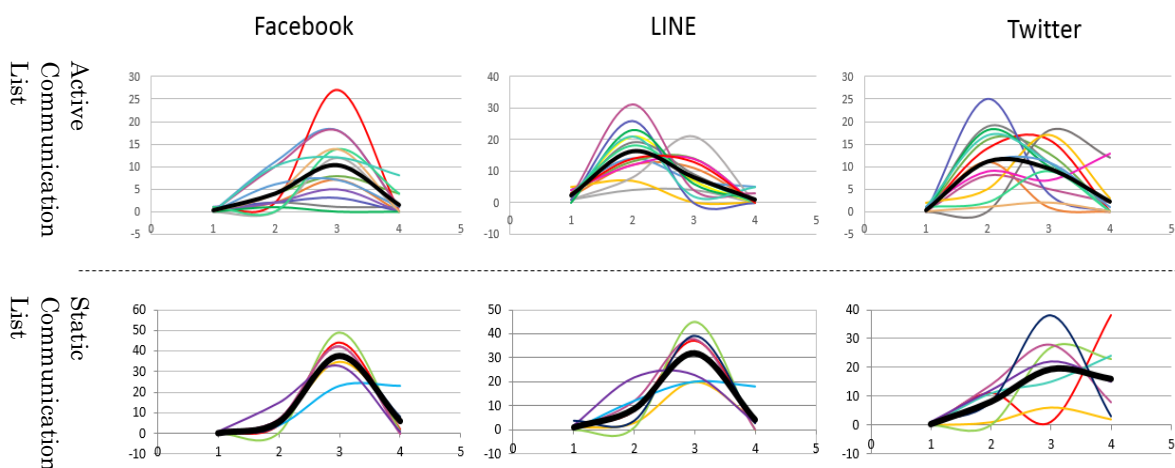


図2 動的交流リスト (ACL) と静的交流リスト (SCL) の対人距離の分布

(b) LINE

動的データでは2の人が一番多いが、静的データでは3が一番多くなっている。連絡先を交換するが直接使う人は仲のいい人が多い傾向にあることがわかった。

(c) Twitter

他の2つとは違い山がバラバラになっている。これは友人関係を詳しく見ていると使い方が2つに分けられていることがわかった。1つは友人同士でつながっている人。2つ目が実際に会ったことはないが趣味が同じでつながっている人。この差や人それぞれ使い方が異なっていることが影響されていると考えられる。

②ACLとSCLの特徴

(a) ACL

それぞれ山の頂点がバラバラである。これは対人距離の多い人が違ってくるのがわかる。また、個人間での差が多くグラフがバラバラである。ソーシャルメディアが同じでも個人によって使い方が同じではないことがわかる。

(b) SCL

3つとも山の頂点が3となっている。特にLINEとFacebookは似ている。全体をみると交友関係の対人距離は似ていることがわかる。Twitter以外は個人によってグラフに差があまりない。個人によって使い方は変わらないことがわかる。

2) SCLの対人距離と実効サイズ (図3)

50人とそろっているので実効サイズに塊が出たのでその部分に注目した。このグラフは各ソーシャルメディアのすみ分けの特徴が現れていた。Facebookは他の2つの中間地点にある。LINEは他の2つよりも四角形が小さめで使い方が似ている。対人距離は近めにも関わらず実効サイズは大きめである。Twitterは一番対人距離が遠く実効サイズも大きい。有名人など一方的にフォローできるので対人距離も遠くなり実効サイズも大きくなったと考えられる。

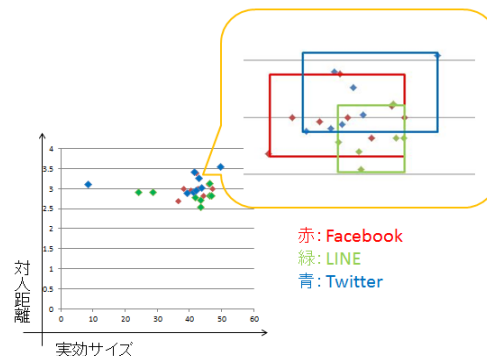


図3 各ソーシャルメディアのすみ分け

3.3 各ソーシャルメディアの利用形態の違いについて

(a) Facebook

仲のいい悪いに関わらず友人の輪が広がっていて、就職活動で使うなど公的なイメージになっている。

(b) LINE

全体を見ると様々な人と繋がっているが連絡をとる人は仲のいい人に偏る傾向がある。

(c) Twitter

人それぞれ使い方がバラバラで全く関わりのない人とも繋がっている。

4. おわりに

社会ネットワーク分析(実効サイズ,密度)と対人距離の相関関係があることがわかった。実効サイズ,対人距離の違いからそれぞれ特徴が違いすみ分けがされていることがわかった。

参考文献

- 1) 東京工科大学「コミュニケーションツール利用実態調査」 2015年
<http://www.teu.ac.jp/sp/press/2015.html?id=111>